

2017年度 第1四半期 決算概要

I. 2017年度 第1四半期 連結業績概要

II. 成長軌道への転換

III. 補足資料

シャープ株式会社

2017年7月28日

【見通しに関する注意事項】

本資料に記載されている内容には、シャープ株式会社及び連結子会社（以下、総称して「シャープ」という）の計画、戦略、業績など将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は過去または現在の事実ではなく、現時点で入手可能な情報から得られたシャープの仮定や判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性及びその他の要因が内在しています。それらの影響により、シャープの実際の業績、事業活動、財務状況は、これらの見通しと大きく異なる場合があります。また、新たな情報、将来の事象、その他にかかわらず、シャープが将来の見通しに関する記述を見直すとは限りません。なお、業績など実際の結果に影響を与えうるリスク、不確実性及びその他の要因としては、以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- (1) シャープの事業領域を取り巻く経済情勢
- (2) シャープの製品やサービスの需要動向の変化や価格競争の激化
- (3) 為替相場の変動(特に、米ドル、ユーロ、その他の通貨と円との為替相場)
- (4) 諸外国における貿易規制等の各種規制
- (5) 他社との提携、アライアンスの推進状況
- (6) シャープに対する訴訟その他法的手続き
- (7) 製品やサービスについての急速な技術革新 など

※本資料の記載金額は、億円未満切り捨て表示としています。

I . 2017年度 第1四半期 連結業績概要

SHARP

1

- ・ 本日はご多忙な中、お集まり頂きありがとうございます。
また日頃は、当社の広報(IR)活動にご協力頂き、まことにありがとうございます。
- ・ それでは、お手許にお配りしておりますパワーポイント資料に沿って、説明いたします。

2017年度 第1四半期 連結業績概要

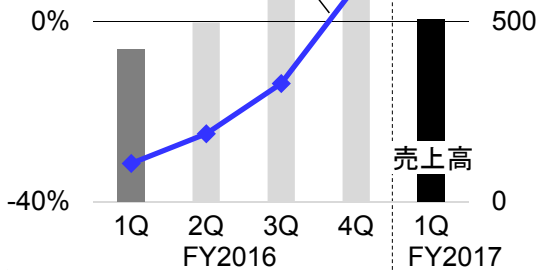
- ・2017年度 第1四半期の売上高は前年同期を上回り、収益も大きく改善
- ・上期予想、通期予想は前回公表値を据え置く

(単位:十億円)

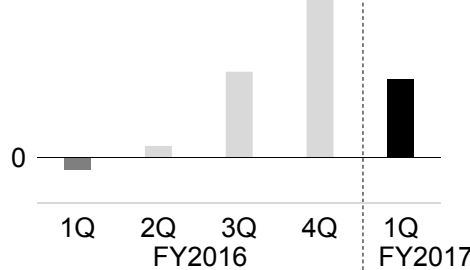
	2016年度	2017年度		2017年度	
	1Q	1Q	前同比	上期予想	通期予想
売上高	423.3	506.4	+19.6%	1,100.0	2,510.0
営業利益	-2.5	17.1	-	37.0	90.0
経常利益	-22.3	17.1	-	33.0	79.0
親会社株主に帰属する 当期純利益	-27.4	14.4	-	25.0	59.0
平均為替レート					
ドル円	107.16	110.10		110.00	110.00
ユーロ円	120.53	120.69		114.00	114.00

売上高

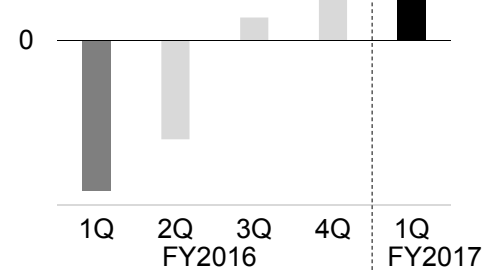
前年同期比



営業利益



親会社株主に帰属する四半期純利益



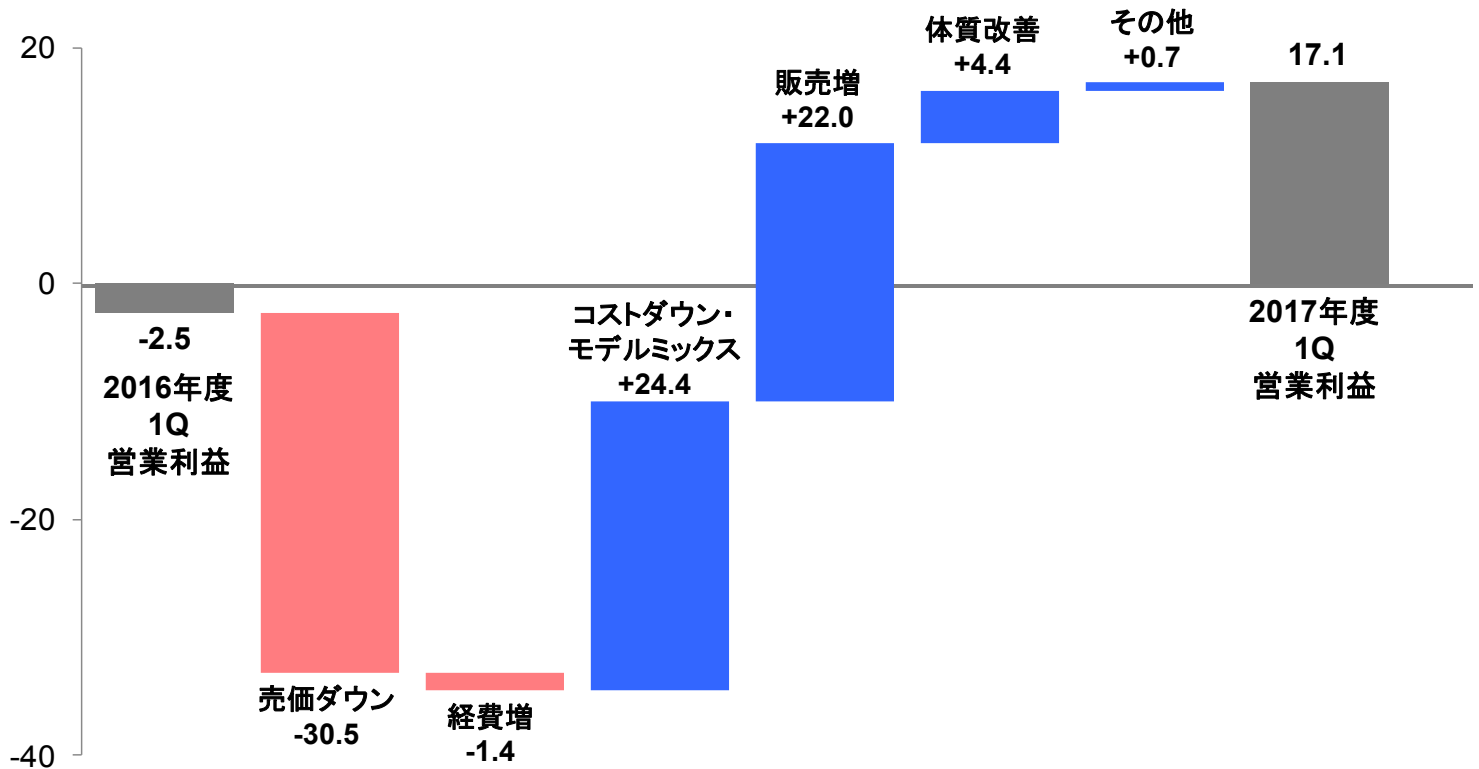
SHARP

2

- ・まず、2017年度 第1四半期の連結業績概要です。
- ・売上高は、前年同期比19.6%増の5,064億円となりました。売上の伸長率は2016年度 第4四半期の7.9%から拡大しています。
- ・利益については、
2桁を超える売上の伸長やコストダウン、モデルミックスの改善などにより、営業利益は、赤字であった前年同期から大きく改善し、171億円となりました。
経常利益も、営業外収支の改善が大きく寄与し、171億円となり
親会社株主に帰属する四半期純利益も、144億円の黒字となりました。
- ・なお、5月26日に公表しました2017年度の業績予想につきましては、変更ございません。

2017年度 第1四半期 営業利益増減分析(対前年同期)

(単位:十億円)



SHARP

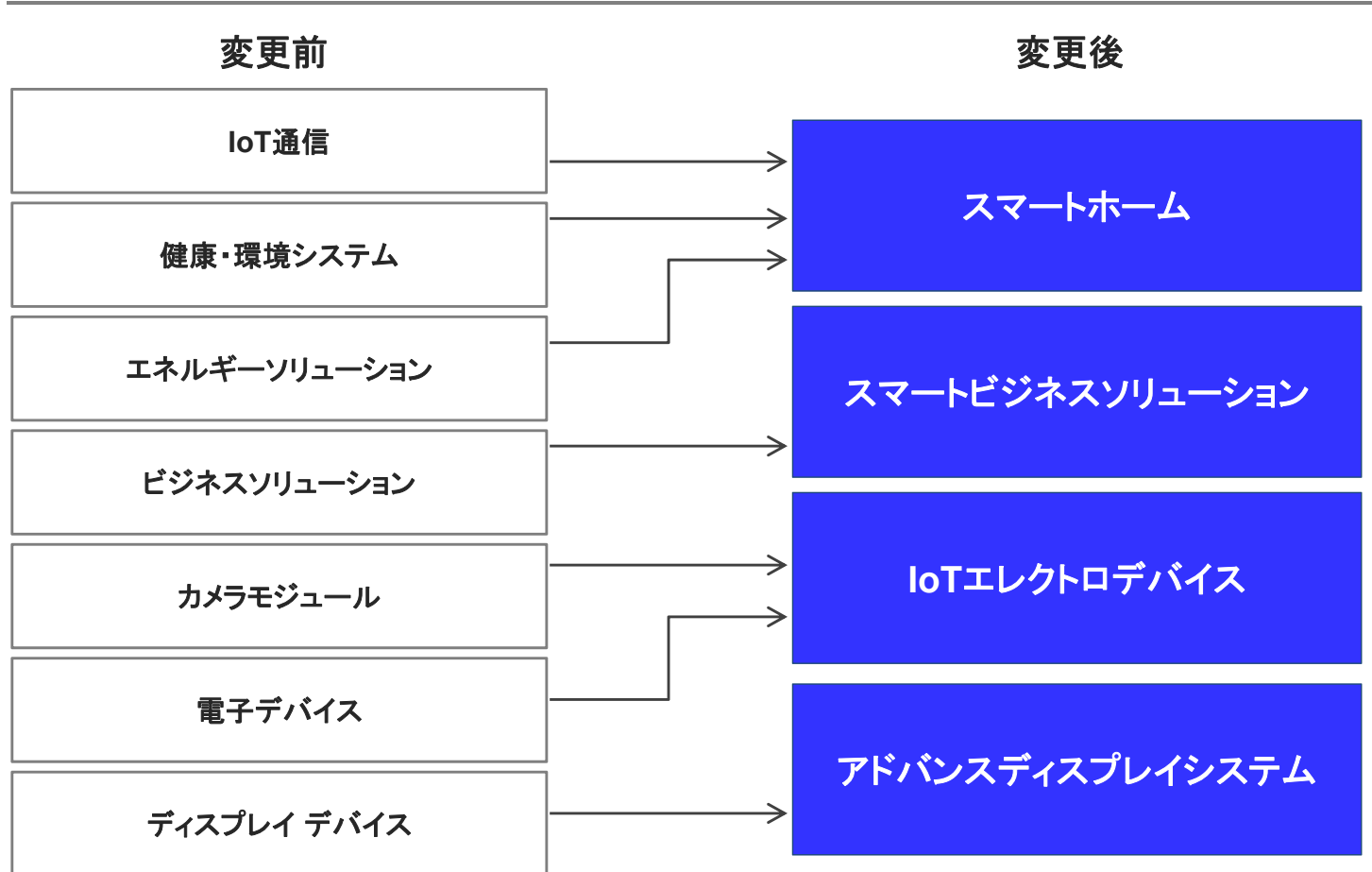
3

- ・ 次のグラフは、営業利益の前年同期比での増減分析です。

ご覧のように、当第1四半期は171億円の営業利益となっており、前年同期の25億円の赤字から、大幅に改善しています。

- ・ 「販売増」による220億円の利益の増加が大きく寄与したことに加え、「売価ダウン」による305億円の利益減や増収に伴う14億円の「経費増」を244億円の「コストダウン及びモデルミックス改善」などでカバーし、前年同期を大幅に上回る収益を確保することができました。

セグメントの変更



SHARP

4

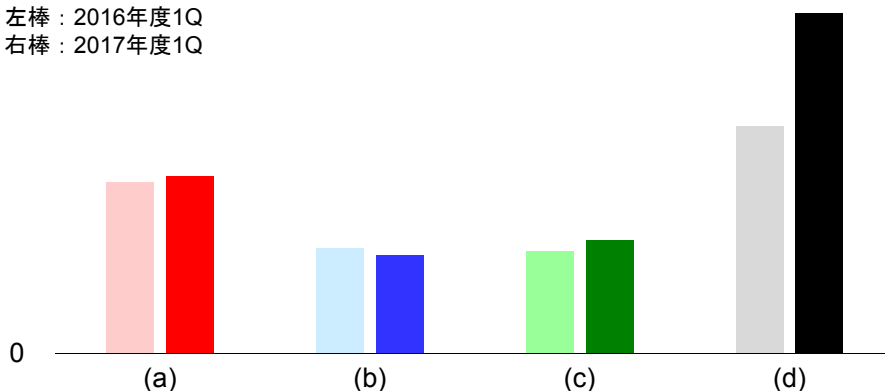
- ・ 次のスライドは、セグメント区分変更の一覧です
- ・ 中期経営計画説明会で公表致しました通り、今年度より4つの事業ドメインを設定しております。これにあわせ、当第1四半期より、報告セグメントを「スマートホーム」「スマートビジネスソリューション」「IoTエレクトロデバイス」「アドバンスディスプレイシステム」の4区分に変更しております。
- ・ 従来の「IoT通信」「健康・環境システム」「エネルギーソリューション」は「スマートホーム」に、従来の「ビジネスソリューション」は「スマートビジネスソリューション」に、従来の「カメラモジュール」「電子デバイス」は「IoTエレクトロデバイス」に、従来の「ディスプレイシステム」は「アドバンスディスプレイシステム」に、それぞれ含まれております。

セグメント別売上高

(単位:十億円)

	2016年度	2017年度	
	1Q	1Q	前同比
(a) スマートホーム	125.0	130.2	+4.2%
(b) スマートビジネスソリューション	77.5	72.1	-6.9%
(c) IoTエレクトロデバイス	75.0	83.2	+11.0%
(d) アドバンスディスプレイシステム	167.1	249.6	+49.4%
小計	444.7	535.3	+20.4%
調整額	-21.3	-28.8	-
合計	423.3	506.4	+19.6%

左棒: 2016年度1Q
右棒: 2017年度1Q



※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

SHARP

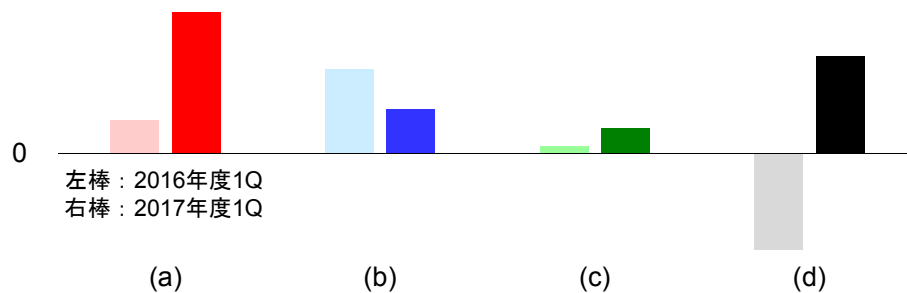
5

- ・ 次のスライドは、セグメント別売上高の一覧です。
- ・ スマートホームは、前年同期比4.2%増の1,302億円となりました。
販路拡大効果もあり携帯電話の販売が順調であったこと、国内でPCI関連商品や洗濯機、掃除機が好調であったことに加え、EPCを中心にエネルギーソリューション事業も比較的堅調に推移しました。
- ・ スマートビジネスソリューションは、サイネージを中心としたビジュアルソリューション事業が好調に推移したものの、複合機業界の低迷による影響もあり、前年同期比6.9%減の721億円となりました。
- ・ IoTエレクトロデバイスは、スマートフォン向けセンサモジュールの需要減少に伴う売上減を、スマートフォン向けカメラモジュールの販売拡大や半導体、レーザなど独自デバイスの売上増でカバーし、前年同期比11.0%増の832億円となりました。
- ・ アドバンスディスプレイシステムは、前年同期比49.4%増の2,496億円と大幅な増収となりました。
液晶テレビ事業は、中国市場での販売拡大やSKYTEC UMC社の子会社化に伴う欧州市場での売上増などもあり、増収となりました。
ディスプレイ事業は、大手顧客向けスマートフォン用パネルが堅調に推移し、PC・タブレット用中型パネルや車載用パネルなども好調であったことから、前年同期を大きく上回りました。

セグメント別営業利益

※()内の数字は営業利益率です。(単位:十億円)

	2016年度		2017年度	
	1Q		1Q	前同比
(a) スマートホーム	2.3	(1.9%)	9.9	4.2倍
(b) スマートビジネスソリューション	5.9	(7.7%)	3.0	-48.8%
(c) IoTエレクトロデバイス	0.5	(0.7%)	1.7	3.5倍
(d) アドバンスディスプレイシステム	-6.8	(-4.1%)	6.7	-
小計	1.9	(0.4%)	21.4	11.1倍
調整額	-4.4		-4.3	-
合計	-2.5	(-0.6%)	17.1	-



SHARP

6

- ・ 続いては、セグメント別営業利益の一覧になります。
各セグメントとも黒字を継続しており、前年同期から大きく改善しています。
- ・ スマートホームの第1四半期の営業利益は、前年同期比4.2倍、75億円増の99億円となりました。
携帯電話の販路拡大や健康・環境事業における新製品、独自商品の投入による商品ラインアップの拡充など、増収による利益の増加や、コストダウン、経費削減の取り組みにより、大幅な増益となりました。
- ・ スマートビジネスソリューションは、コストダウン、経費削減に取り組みましたが、販売減の影響もあり、前年同期比48.8%減の30億円の黒字にとどまりました。
- ・ IoTエレクトロデバイスは、センサモジュールなど独自デバイスによりモデルミックスが改善したことに加え、継続してコストダウンに取り組んだこともあり、前年同期比3.5倍の17億円となりました。
- ・ アドバンスディスプレイシステムは、67億円の黒字となり、赤字であった前年同期から、大きく改善しました。
液晶テレビ事業は、売価ダウンやルートミックスの悪化があったものの、好調な販売により、黒字を継続しています。
ディスプレイ事業は、PC・タブレット用中型パネルや車載用パネルの売上比率増加に伴う収益性の改善やコストダウン効果により、大幅に改善しました。

営業外損益・特別損益・法人税等の概要

(単位:十億円)

	2016年度		2017年度	
	1Q	通期	1Q	前年 増減額
営業利益	-2.5	62.4	17.1	+19.6
営業外損益	-19.8	-37.3	+0.0	+19.8
内:支払利息	-2.4	-6.3	-1.2	+1.2
持分法による投資損益	-11.0	-18.6	+0.5	+11.6
経常利益	-22.3	25.0	17.1	+39.5
特別損益	-1.0	-25.6	-0.7	+0.2
内:投資有価証券売却損益	-	+3.2	-	-
段階取得に係る差損	-	-	-0.9	-0.9
受取和解金	-	+6.2	-	-
減損損失	-1.5	-34.6	-	+1.5
税前利益	-23.3	-0.5	16.4	+39.8
法人税等 他	-4.0	-24.2	-1.9	+2.1
親会社株主に帰属する 四半期純利益	-27.4	-24.8	14.4	+41.9

SHARP

7

- ・ 次のスライドは、主な「営業外損益」・「特別損益」・「法人税等」の概要です。
- ・ 2017年度 第1四半期の「営業外損益」は、構造改革効果に伴い支払利息が前年同期から12億円減少したことに加え、大幅な赤字であった「持分法による投資損益」が黒字化したことから、前年同期に比べ、大きく改善しました。
- ・ なお、特別損失として、持分法適用会社の連結子会社化に伴い発生した「段階取得に係る差損」を計上しております。

これは、取得時との為替レート差などに起因するもので、持分法適用会社としてすでに純資産の部の為替換算調整勘定には反映済みであるため、純資産への影響は僅少です。

連結貸借対照表推移

- ・2017年6月末の純資産は、3月末の3,078億円から3,318億円に増加
- ・自己資本比率は17.5%に改善

(単位:十億円)

	2016年度		2017年度		2016年度		2017年度
	12月末	3月末	6月末		12月末	3月末	6月末
現預金	451.7	482.1	466.0	支払手形・買掛金	352.2	350.5	376.0
受取手形・売掛金	386.5	375.5	414.1	短期借入金	104.5	113.5	114.5
たな卸資産	209.9	217.8	219.6	1年内社債	0.0	0.0	0.0
その他	138.5	118.1	116.7	その他	353.9	337.5	312.7
流動資産計	1,186.8	1,193.7	1,216.5	流動負債計	810.8	801.6	803.3
有形固定資産	363.9	349.6	358.2	社債	40.0	40.0	40.0
無形固定資産	38.7	42.3	42.2	長期借入金	490.4	490.3	490.2
投資その他資産	186.8	187.9	191.1	その他	138.6	133.9	142.8
固定資産計	589.4	579.9	591.7	固定負債計	669.0	664.2	673.0
繰延資産	0.0	0.0	0.0	純資産	296.4	307.8	331.8
資産合計	1,776.4	1,773.6	1,808.3	負債純資産合計	1,776.4	1,773.6	1,808.3
期末日レート				自己資本比率	16.1%	16.6%	17.5%
ドル円	115.53	111.20	111.00				
ユーロ円	121.23	118.28	126.45				

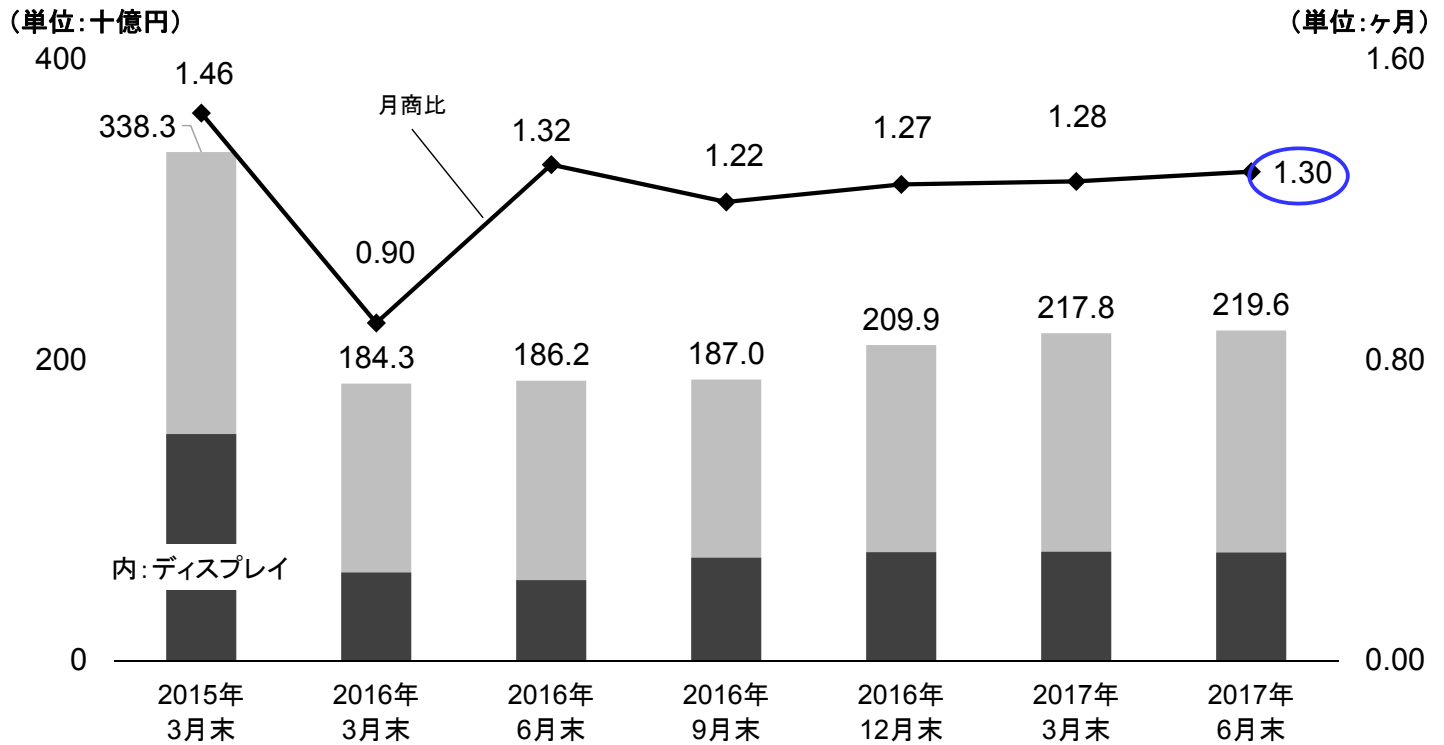
SHARP

8

- ・ 次のスライドは、貸借対照表の推移です。
- ・ 2017年度 第1四半期末の「現預金」は、収益の順調な回復がありましたが、事業拡大に向けた積極的な投資や売上拡大基調に伴う運転資金の負担増により、2016年度末の4,821億円から、4,660億円へと減少しています。
- ・ 2017年度 第1四半期末の「純資産」は、親会社株主に帰属する四半期純利益が黒字であったことや、為替影響により、2016年度末に比べ240億円増加し、3,318億円となりました。
- ・ 「自己資本比率」についても、2016年度末の16.6%から17.5%に改善しています。

たな卸資産の推移

- ・たな卸資産は、2017年3月末から若干増加し、2,196億円に
- ・今後の販売計画等を勘案し、引き続き適正な在庫水準を維持



SHARP

9

- ・ 次のスライドは、「たな卸資産」の推移です。
- ・ 2017年度第1四半期末の「たな卸資産」は、季節要因や新商品発売に備えた在庫の増加により、2016年度末と比べ若干増加し、2,196億円となりました。月商比では0.02ヶ月増の1.30ヶ月となりました。

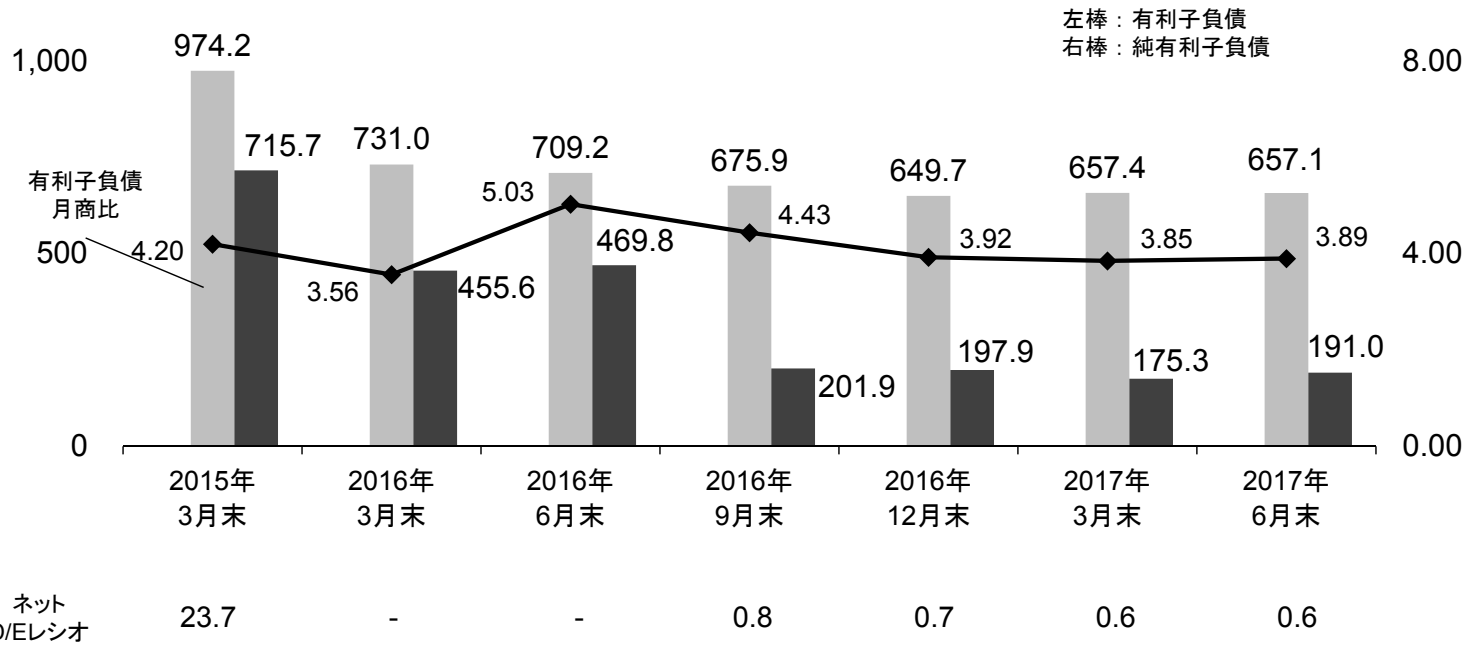
第2四半期以降の需要動向、販売リスク等を適時把握し、引き続き適正な在庫水準を維持してまいります。

有利子負債の推移

- ・2017年6月末の有利子負債は、3月末から若干減少し、6,571億円となる。
月商比では3.85ヶ月から3.89ヶ月に
- ・純有利子負債※は、1,753億円から1,910億円に増加

(単位:十億円)

(単位:ヶ月)



※純有利子負債：有利子負債 - 現預金

SHARP

10

- ・ 次のスライドは、有利子負債の推移です。
- ・ 2017年度第1四半期末の有利子負債は、為替変動の影響で外貨建て借入の円貨換算額が増加したものの、リース債務の返済等により、2016年度末から若干減少し、6,571億円となりました。
純有利子負債は、現預金の減少に伴い157億円増加し、1,910億円となりました。
- ・ 引き続き在庫の適正化や、効率的な設備投資の実施に努め、キャッシュフローの改善を図ります。

Ⅱ．成長軌道への転換

- ・次は、成長軌道への転換に向けた取り組みです。

成長軌道への転換

構造改革から事業拡大へ

Next
100 Years
持続的成長

Transformation

守りから攻めへ

- ・人に寄り添うIoT
- ・8Kエコシステム

Survival

構造改革

- ・事業推進体制の強化
- ・コスト競争力の強化
- ・成長に向けた布石

2016年度

2017年度

2018年度

2019年度

2020年度～

SHARP

12

- ・ 先日の中期経営計画説明会でも、ご説明しました通り、
2017年度からは「守りから攻めへ、構造改革から事業拡大へ」と軸足を移し、
次の100年間、持続的に成長し続けられる企業を目指し、
「中期経営計画」を有言実現してまいります。

Ⅲ.補足資料

- ・ 補足資料として、「セグメント別売上高・営業利益」等の実績をまとめておりますので、ご確認下さい。
- ・ ご清聴ありがとうございました。

連結業績概要

(単位:十億円)

	2016年度			2017年度		
	上期	下期	通期	上期予想	下期予想	通期予想
売上高	919.6	1,130.9	2,050.6	1,100.0	1,410.0	2,510.0
営業利益	0.0	62.3	62.4	37.0	53.0	90.0
(利益率)	(0.0%)	(5.5%)	(3.0%)	(3.4%)	(3.8%)	(3.6%)
経常利益	-32.0	57.1	25.0	33.0	46.0	79.0
(利益率)	(-3.5%)	(5.1%)	(1.2%)	(3.0%)	(3.3%)	(3.1%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	-45.4	20.5	-24.8	25.0	34.0	59.0
(利益率)	(-4.9%)	(1.8%)	(-1.2%)	(2.3%)	(2.4%)	(2.4%)

SHARP

14

四半期 連結業績概要

(単位:十億円)

	2016年度				2017年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
売上高	423.3	496.2	571.5	559.3	506.4
営業利益	-2.5	2.5	18.8	43.5	17.1
(利益率)	(-0.6%)	(0.5%)	(3.3%)	(7.8%)	(3.4%)
経常利益	-22.3	-9.7	16.7	40.3	17.1
(利益率)	(-5.3%)	(-2.0%)	(2.9%)	(7.2%)	(3.4%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	-27.4	-17.9	4.2	16.2	14.4
(利益率)	(-6.5%)	(-3.6%)	(0.7%)	(2.9%)	(2.9%)

SHARP

15

セグメント別売上高

(単位:十億円)

	2016年度		
	上期	下期	通期
スマートホーム	263.6	286.9	550.6
スマートビジネスソリューション	159.6	158.0	317.7
IoTエレクトロデバイス	177.1	236.4	413.6
アドバンスディスプレイシステム	357.5	484.5	842.0
小計	958.0	1,166.0	2,124.0
調整額	-38.3	-35.0	-73.4
合計	919.6	1,130.9	2,050.6

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

SHARP

16

セグメント別営業利益

(単位:十億円)

	2016年度		
	上期	下期	通期
スマートホーム	14.4 (5.5%)	33.9 (11.8%)	48.4 (8.8%)
スマートビジネスソリューション	11.2 (7.0%)	11.2 (7.1%)	22.5 (7.1%)
IoTエレクトロデバイス	-1.5 (-0.9%)	9.5 (4.1%)	8.0 (1.9%)
アドバンスディスプレイシステム	-14.6 (-4.1%)	18.2 (3.8%)	3.5 (0.4%)
小計	9.5 (1.0%)	73.0 (6.3%)	82.5 (3.9%)
調整額	-9.4	-10.6	-20.1
合計	0.0 (0.0%)	62.3 (5.5%)	62.4 (3.0%)

※()内の数字は営業利益率です。

SHARP

17

四半期 セグメント別売上高

(単位:十億円)

	2016年度				2017年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
スマートホーム	125.0	138.6	128.9	157.9	130.2
スマートビジネスソリューション	77.5	82.1	72.3	85.7	72.1
IoTエレクトロデバイス	75.0	102.1	140.5	95.9	83.2
アドバンスディスプレイシステム	167.1	190.3	245.4	239.0	249.6
小計	444.7	513.3	587.3	578.6	535.3
調整額	-21.3	-17.0	-15.7	-19.3	-28.8
合計	423.3	496.2	571.5	559.3	506.4

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

SHARP

18

四半期 セグメント別営業利益

(単位:十億円)

	2016年度				2017年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
スマートホーム	2.3 (1.9%)	12.1 (8.8%)	2.9 (2.3%)	30.9 (19.6%)	9.9 (7.6%)
スマートビジネスソリューション	5.9 (7.7%)	5.2 (6.4%)	4.1 (5.8%)	7.1 (8.3%)	3.0 (4.2%)
IoTエレクトロデバイス	0.5 (0.7%)	-2.0 (-2.0%)	5.6 (4.0%)	3.9 (4.1%)	1.7 (2.1%)
アドバンスディスプレイシステム	-6.8 (-4.1%)	-7.8 (-4.1%)	11.0 (4.5%)	7.1 (3.0%)	6.7 (2.7%)
小計	1.9 (0.4%)	7.6 (1.5%)	23.8 (4.1%)	49.1 (8.5%)	21.4 (4.0%)
調整額	-4.4	-5.0	-4.9	-5.6	-4.3
合計	-2.5 (-0.6%)	2.5 (0.5%)	18.8 (3.3%)	43.5 (7.8%)	17.1 (3.4%)

※()内の数字は営業利益率です。

SHARP

19

設備投資・減価償却費等

(単位:十億円)

	2016年度			2017年度
	上期	下期	通期	通期予想
設備投資	27.4	50.3	77.7	140.0
内:ディスプレイ	12.7	21.4	34.1	60.0
減価償却費	27.4	32.3	59.7	80.0
研究開発費	55.8	50.2	106.1	120.0

(単位:円)

平均為替レート	2016年度			2017年度
	上期	下期	通期	通期想定
米ドル	104.30	110.48	107.39	110.00
ユーロ	116.66	117.93	117.29	114.00

四半期 設備投資・減価償却費等

(単位:十億円)

	2016年度				2017年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
設備投資	10.2	17.2	35.4	14.8	18.8
内:ディスプレイ	5.6	7.0	14.1	7.2	3.2
減価償却費	13.5	13.8	16.2	16.1	14.1
研究開発費	29.7	26.1	29.3	20.8	28.7

(単位:円)

平均為替レート	2016年度				2017年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
米ドル	107.16	101.44	108.32	112.64	110.10
ユーロ	120.53	112.78	116.29	119.58	120.69

SHARP

Be Original.

